

別紙 1 わいせつ行為等に係る懲戒処分事案の具体的な状況について

■本調査における「わいせつ行為等」の定義について

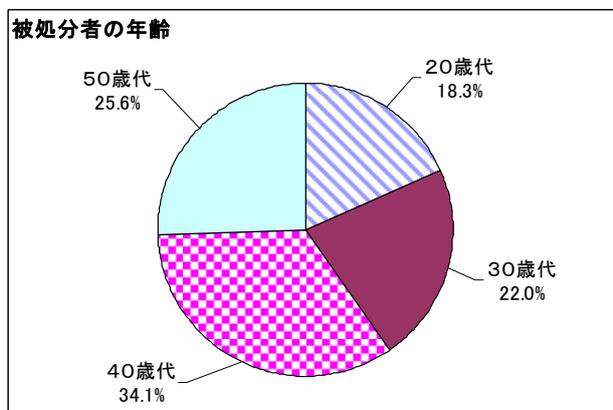
- 「わいせつ行為等」とは、わいせつ行為及びセクシュアル・ハラスメントをいう。
- 「わいせつ行為」とは、強姦，強制わいせつ（13歳以上の者への暴行・脅迫によるわいせつ行為および13歳未満の者へのわいせつ行為。），公然わいせつ，わいせつ物頒布等，買春，痴漢，のぞき，陰部等の露出，青少年保護条例等違反，不適切な裸体・下着姿等の撮影（隠し撮り等を含む。），わいせつ目的をもって体に触ること等をいう。
- 「セクシュアル・ハラスメント」とは，他の職員，児童生徒等を不快にさせる性的な言動等をいう。

(1) 被処分者の性別

被処分者の性別	人数(人)	割合(%)
男性	162	98.8
女性	2	1.2
合計	164	100.0

(2) 被処分者の年齢層

被処分者の年齢層が最も多かったのは、「40歳代」であり、全体の34.1%（56人）を占めている。続いて、「50歳代」（25.6%、42人）、「30歳代」（22.0%、36人）となっている。



被処分者の年齢層	人数(人)	割合(%)
20歳代	30	18.3
30歳代	36	22.0
40歳代	56	34.1
50歳代	42	25.6
60歳以上	0	0.0
合計	164	100.0

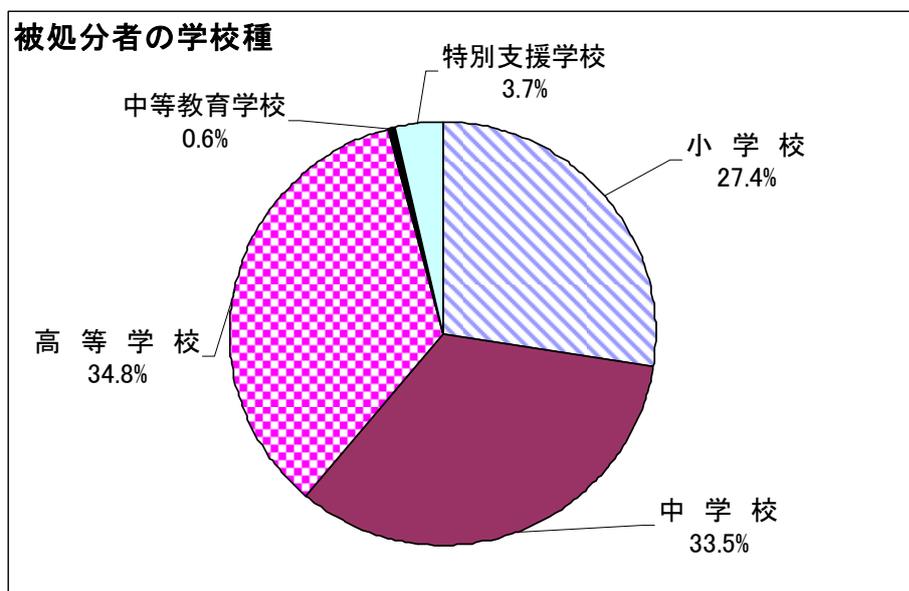
(3) 被処分者の過去におけるわいせつ行為等に係る処分歴の有無

被処分者の処分歴	人数(人)	割合(%)
あり	1	0.6
なし	163	99.4
合計	164	100.0

※処分歴とは、過去にわいせつ等の行為により懲戒処分を受けた前歴のこと。

(4) 被処分者の所属する学校種

被処分者の所属する学校については、最も多かったのが「高等学校」であり、全体の34.8% (57人) を占めている。続いて、「中学校」(33.5%、55人)、「小学校」(27.4%、45人) となっている。



学校種	人数(人)	割合(%)
小学校	45	27.4
中学校	55	33.5
高等学校	57	34.8
中等教育学校	1	0.6
特別支援学校	6	3.7
合計	164	100.0

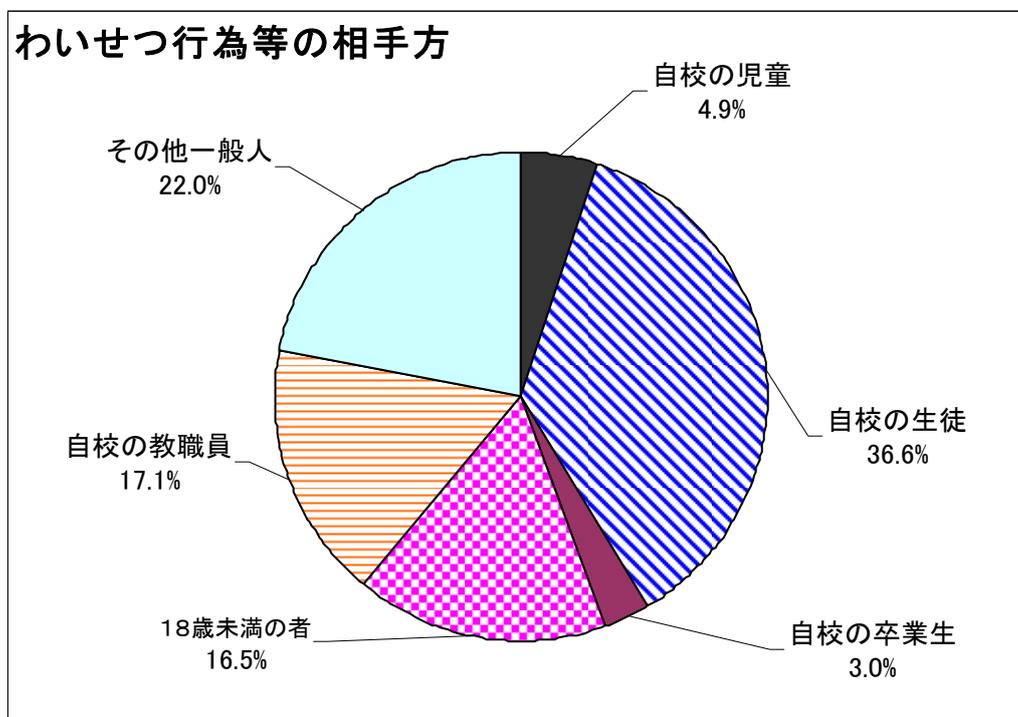
(5) わいせつ行為等の相手の性別

相手の性別	人数(人)	割合(%)
男性	9	5.5
女性	146	89.0
特定の被害者なし	9	5.5
合計	164	100.0

(注)「特定の被害者なし」のものは9件あり、その態様は、「盗撮・のぞき」が3件、「陰部等の露出」4件、「わいせつビデオ等の販売」が2件である。

(6) わいせつ行為等の相手の属性

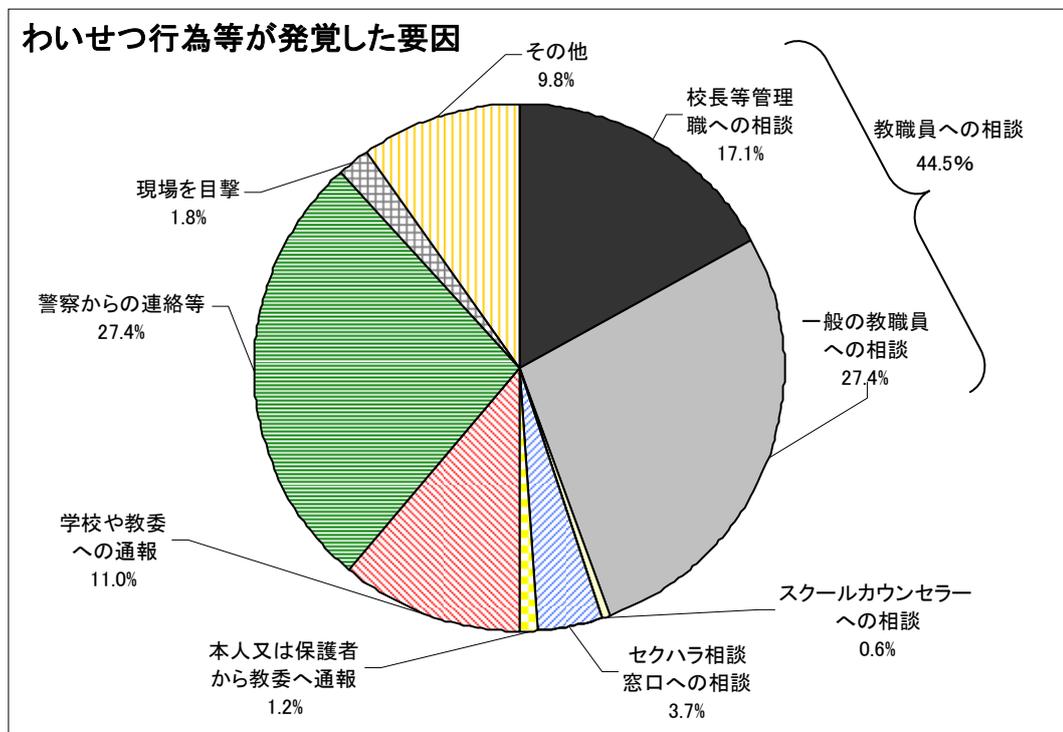
わいせつ行為の相手方の属性として、最も多かったのが「自校の生徒」(36.6%、60人)であり、続いて、「その他一般人」(22.0%、36人)、「自校の教職員」(17.1%、28人)、18歳未満の者(自校の児童生徒等以外)(16.5%、27人)となっている。



相手の属性	人数(人)	割合(%)	
児童・生徒等	自校の児童	8	4.9
	自校の生徒	60	36.6
	自校の卒業生	5	3.0
	18歳未満の者	27	16.5
	小計	100	61.0
	自校の教職員	28	17.1
	その他一般人	36	22.0
	合計	164	100.0

(7) わいせつ行為等が発覚した要因

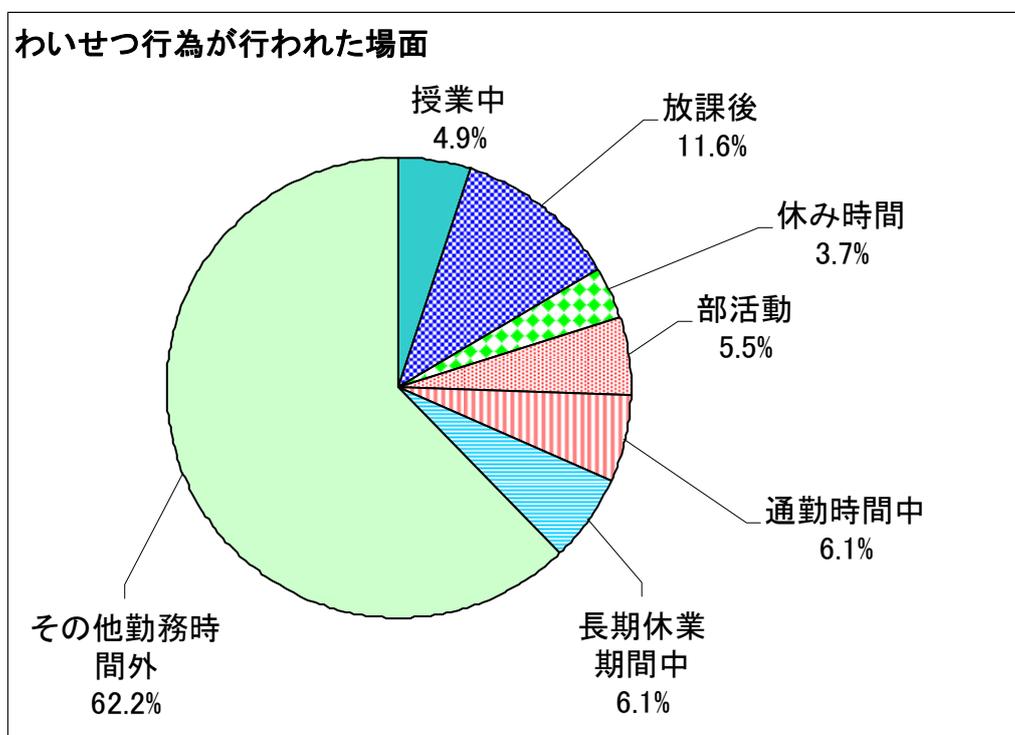
わいせつ行為等が発覚した要因で最も多かったものは「管理職以外の一般の教職員への相談」及び「警察からの連絡等」であり、それぞれ全体の27.4%（45件）を占めている。続いて、「校長等管理職への相談」（17.1%、28件）となっており、これに「管理職以外の一般の教職員への相談」をあわせた「教職員への相談」は44.5%（73件）である。



わいせつ行為等が発覚した要因		件数(件)	割合(%)
の教職員へ	校長等管理職への相談	28	17.1
	管理職以外の一般の教職員への相談	45	27.4
	スクールカウンセラーへの相談	1	0.6
	セクハラ相談窓口への相談	6	3.7
	本人又は保護者から教委へ通報	2	1.2
	本人又は保護者以外の者から学校や教委への通報	18	11.0
	警察からの連絡等(教育関係者を介さず直接)	45	27.4
	現場を目撃	3	1.8
	その他	16	9.8
合計		164	100.0

(8) わいせつ行為等が行われた場面

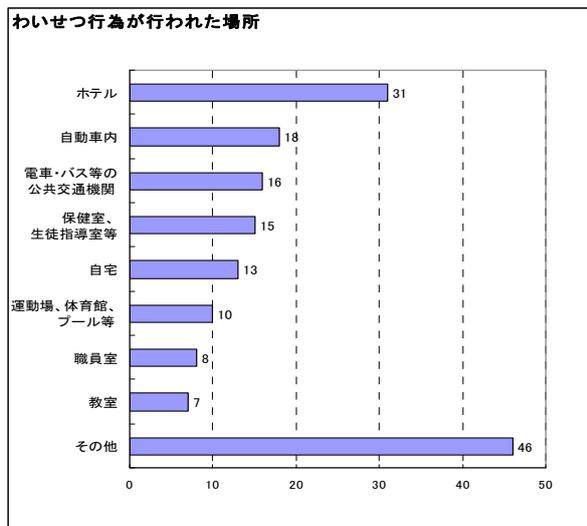
わいせつ行為等が行われた場面で最も多かったのが、「その他勤務時間外」であり、全体の62.2%（102件）を占めている。続いて、「放課後」（11.6%、19件）、「通勤時間中」及び「長期休業期間中」（それぞれ6.1%、10件）となっている。



わいせつ行為が行われた場面	件数(件)	割合(%)
授業中	8	4.9
放課後	19	11.6
休み時間	6	3.7
部活動	9	5.5
通勤時間中	10	6.1
長期休業期間中	10	6.1
その他勤務時間外	102	62.2
合計	164	100.0

(9) わいせつ行為等が行われた場所

「その他」を除き、わいせつ行為等が行われた場所で最も多かったものは「ホテル」であり、31件となっている。続いて、「自動車内」18件、「電車・バス等の公共交通機関」16件となっている。

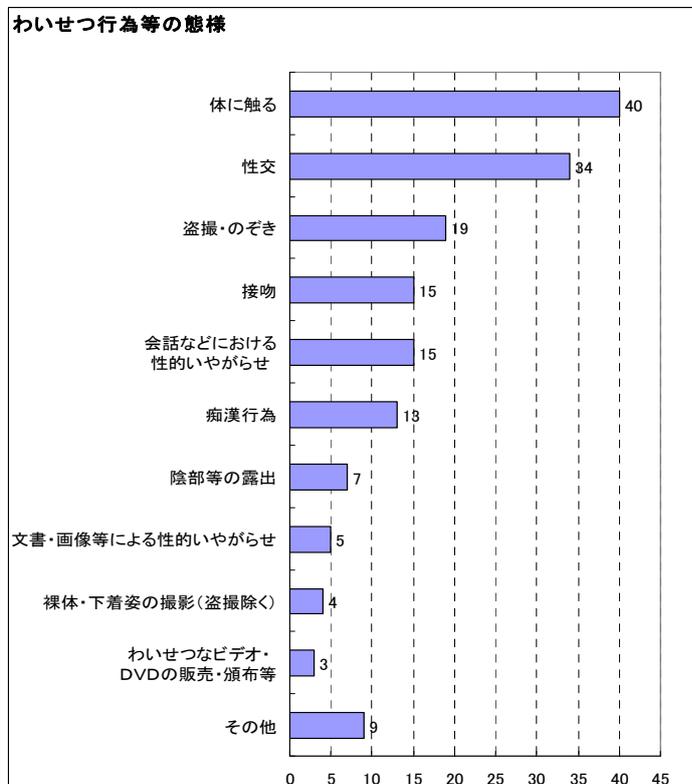


わいせつ行為等が行われた場所	件数(件)
ホテル	31
自動車内	18
電車・バス等の公共交通機関	16
保健室、生徒指導室等	15
自宅	13
運動場、体育館、プール等	10
職員室	8
教室	7
その他	46
合計	164

※該当事項が複数ある場合には、最も当てはまるものひとつを選択回答。

(10) わいせつ行為等の態様

わいせつ行為等の態様で最も多かったものは「体に触る」であり、40件となっている。続いて、「性交」34件、「盗撮・のぞき」19件となっている。



わいせつ行為等の態様	件数(件)
体に触る	40
性交	34
盗撮・のぞき	19
接吻	15
会話などにおける性的いやがらせ	15
痴漢行為	13
陰部等の露出	7
文書・画像等(メール等を含む)による性的いやがらせ	5
裸体・下着姿の撮影(盗撮を除く)	4
わいせつなビデオ・DVDの販売・頒布等	3
その他	9
合計	164

※該当事項が複数ある場合には、最も当てはまるものひとつを選択回答。